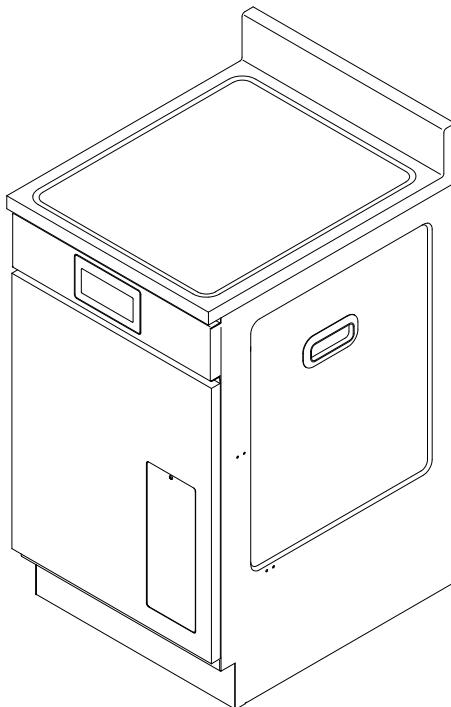


工事要領、取扱説明書

**製品名：調理台型給湯ユニット
型式：ES-50,80DWUB-LC(6)**



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置、ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、必ず本書をご使用になる方にお渡しください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。

※この工事要領・取扱説明書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。

もくじ

共通項目	2
安全上のご注意	3
ES-DWUBシリーズについて	6
各部名称と機能	6
仕様一覧	7
工事要領	8
施工前にご確認ください	9
1. 製品の確認	9
2. 設置場所の確認	10
施工する	11
1. 設置工事	11
2. 配管工事	13
3. 電気工事	14
4. 施工後の確認	14
試運転を行う	15
1. 給湯器に給水する	15
2. 試運転を行う	18
3. 試運転後の確認	20
4. 試運転後に必ず行ってください	20
取扱説明	22
使用方法	23
1. 使用前の準備と確認	23
2. 給湯器に給水する	23
3. 運転する	25
4. 出湯する	27
お手入れの方法	28
保守点検項目と実施の目安	28
長期間使用しないときは	28
短期間使用しないときは	30
凍結防止対策	31
逃し弁の動作確認	31
間欠エア抜き弁の動作確認	33
ストレーナーの清掃	34
外装のお手入れ	35
こんなときは	36
故障かな？と思ったら	36
リセットの方法①	39
リセットの方法②	40
アフターサービス	41
消耗品について	41
補修用性能部品について	41
メンテナンス契約について	41
修理をご依頼の際には	41

共通項目

共通項目

安全上のご注意

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。設置の前に、必ず本書をお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。



この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。



○の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
○の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は分解禁止を意味します。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜くこと、という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

△警告



アース(D種接地)工事を確認してください。
アース工事がされないと故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。



必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。
万一の故障等による漏電発生時に感電、火災のおそれがあります。

定格電圧でお使いください。一時変動がある場合には±10%以内の環境でお使いください。
故障、火災の原因となります。



水が掛かったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。
腐食や感電、故障の原因になります。

水・油・洗剤等が掛かる位置に機器本体および電源プラグ用のコンセント(電源プラグ付機種の場合)を設けないでください。
腐食や感電、故障の原因になります。

屋外に設置しないでください。
感電、故障の原因となります。

設置時、リセット操作時、メンテナンス作業時以外は前扉、天板、逃し弁点検口を開けないでください。
感電、やけどのおそれがあります。

本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。
発火のおそれがあります。



絶対に改造はしないでください。
火災、感電、やけど、故障やケガの原因となります。

⚠警告

逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管に手を触れないでください。
やけどのおそれがあります。

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、水栓金具に直接触れないでください。
やけどのおそれがあります。

タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。
配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。

⚠注意

床面に防水、排水処置を施してください。
漏水が起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。

満水質量に十分耐えられる強度を持った床面に必ず水平に設置してください。
故障の原因となります。

給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。
漏水の原因となります。

配管に使用するパッキンはノンアスペストパッキンを使用してください。
漏水の原因となります。

満水にしてから通電してください。
故障の原因となります。

規定の給水圧力(静止圧)にてご使用ください。
誤動作、故障の原因となります。

定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。
万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。

定期的に間欠エア抜き弁の動作確認を行ってください。
万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。

本体設置場所周辺の温度が氷点下になる、もしくは予想される場所では、各配管に対しヒーターや保温材を巻く等の凍結予防処置を施してください。
凍結により破損、漏水のおそれがあります。

長期間使用しない場合はタンクの水を抜いてください。
水質が悪化するおそれがあります。

水抜口および逃し管は、排水管に直接つながないで間接排水としてください。
汚水が逆流した場合、タンク内が不衛生な状態になり健康を害するおそれがあります。

貯湯温度が80°C未満の場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。
健康を害するおそれがあります。

共通項目

安全上のご注意

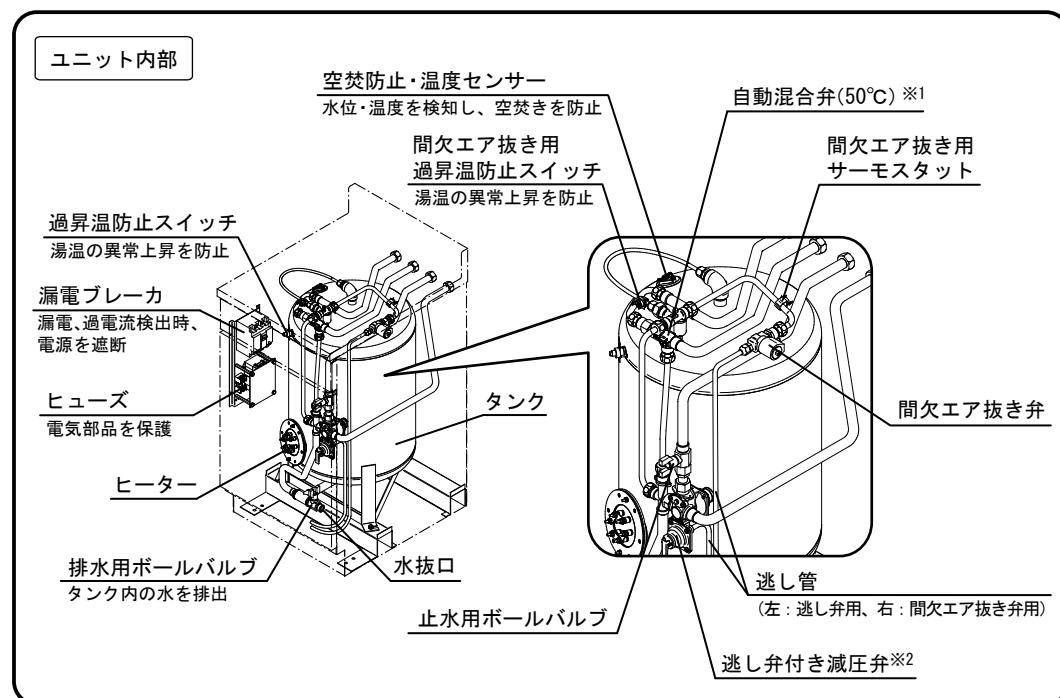
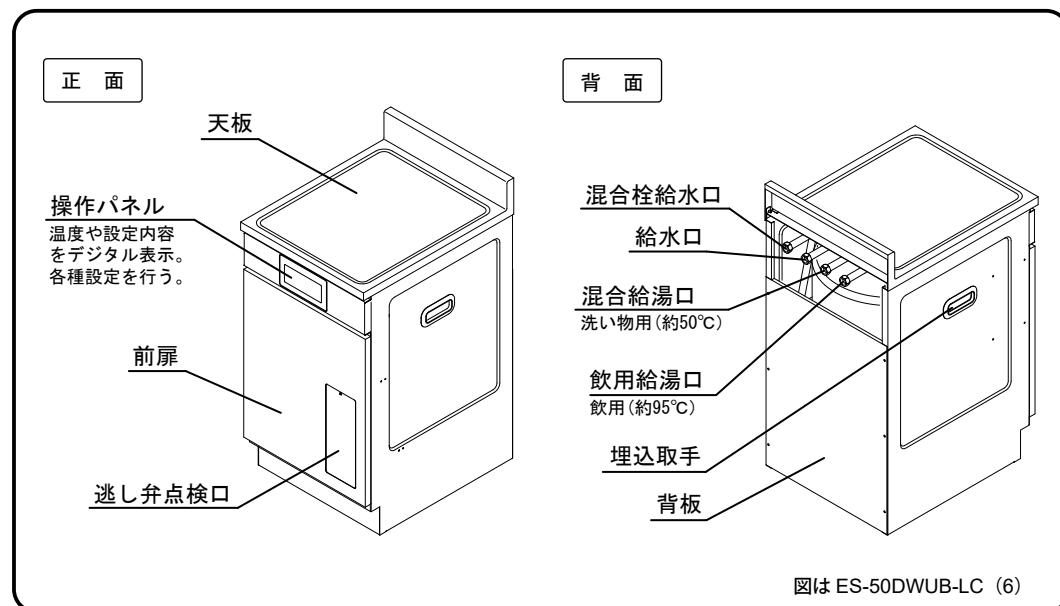
⚠ 注意	
	本体より低い場所への給湯、および給湯加圧ポンプのご使用はやめてください。 タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	逃し管の先をふさがないでください。 タンクや配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。
	機器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水、故障の原因となります。
🚫	水道水（上水）以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水するおそれがあります。
	長期間のご使用によってタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固体物や変色、にごり、異臭があった場合は飲用にしないでください。 健康を害するおそれがあります。
	機器本体へ配管接続する前に配管内のゴミ（切削粉、砂、シールテープ等）を除去するため、止水栓を開きフラッシングしてください。 故障や漏水の原因となります。
	機器本体に強い力や衝撃を与えないでください。 故障や漏水の原因となります。

ES-DWUBシリーズについて

本シリーズは、飲用と洗い物用の給湯器2台分の機能が一台にまとめた、調理台付きの「調理台型給湯ユニット」です。

運転や湯温などのコントロールは、マイコンを搭載した操作パネルを使って簡単に行うことができます。操作パネルには、現在温度や設定内容が表示され、故障診断機能やタイマー機能が備わっています。

各部名称と機能



※1 ……熱湯と水を混合し、洗い物用に湯温を約50°Cに調整します。

※2 ……タンク内の圧力を97kPa以下に保持します。(テストレバー付き)沸き上げ中は、逃し管から膨張水を排出します。

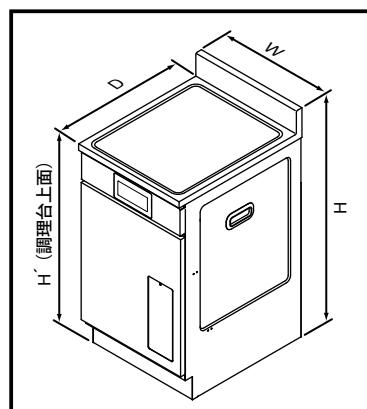
共通項目

ES-DWUBシリーズについて

仕様一覧

項目	型番 ES-50DWUB-LC(6)		ES-80DWUB-LC(6)			
定格	電圧	単相 200V				
	消費電力	3.1kW				
貯湯量	50 ドル		80 ドル			
出湯温度	飲用給湯口:約95°C 混合給湯口:約50°C					
設定温度	約40~95°C					
給湯方式	先止式					
使用水圧(静止時)	0.1 ~ 0.5MPa					
最高使用圧力	0.1MPa以下					
給水、給湯接続口径	G1/2(15A),メネジ(袋ナット)					
水抜接続口径	G1/2(15A),オネジ					
一次側使用水温	0(但し凍結のないこと)~40°C					
設置環境温度	0(但し凍結のないこと)~40°C					
外形寸法 (mm) W × D × H	H' = 800	H' = 850	H' = 800	H' = 850		
	450×550×890	450×550×940	600×550×890	600×550×940		
満水質量	約 88kg		約 123kg			
主要部品	ヒーター	シーズヒーター (SUS316L)				
	減圧弁	設定圧力 80kPa				
	逃し弁	設定圧力 97kPa				
	間欠エア抜き弁	定時開放				
	自動混合弁	設定温度 約 50°C				
安全装置	漏電検出装置	漏電ブレーカ (30mA、0.1秒)				
	空焚・過昇温検出	バイメタル式				
	温度センサー 異常検出	電子制御式				
	間欠エア抜き弁 異常検出	バイメタル式				
	設置場所	屋内				

※沸き上がり時間の目安はP.27を参照してください。



工事要領

正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

工事要領

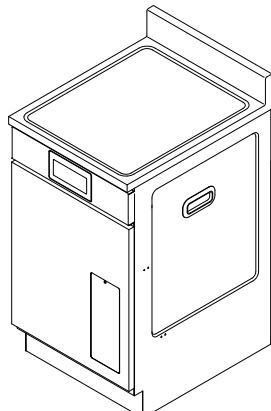
施工前にご確認ください

施工前にご確認ください

1. 製品の確認

【本体および付属品】

ES-DWUB本体

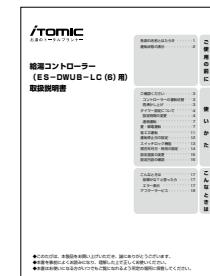


各型番の違いはP.7参照→

付属品



工事要領、取扱説明書 × 1
(この冊子です。当冊子は工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。)



給湯コントローラー取扱説明書 × 1
(工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。)

【お客様にてご手配ください】

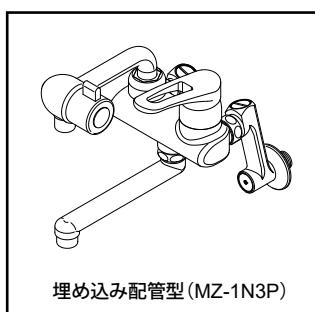
お客様手配品 (必ず事前にご用意ください。)

- ①熱湯栓、混合水栓 ・・・ 出湯するために熱湯専用水栓と混合水栓がそれぞれ必要です。
- ②止水栓 ・・・ 水抜きやメンテナンス時に給水を止めるため必要です。
- ③漏電ブレーカー ・・・ 万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA、0.1秒)
- ④水抜用配管 ・・・ 水抜きするときに必要です。
- ⑤排水受け ・・・ 膨張水排水処理をするときなどに必要です。
- ⑥アンカーボルト ・・・ 温水器を固定するために必要です。

上記は必ずお客様にてご用意ください。

関連商品 (弊社にてお求めいただけます。)

- ⑦まぜまぜP ・・・ ワンレバーで簡単に水とお湯を混合できる熱湯口付き混合水栓です。埋め込み配管型 (MZ-1N3P) と立ち上がり配管型 (MZ-3N3P) があります。
- ⑧熱湯栓、混合水栓 ・・・ 热湯専用に設計された熱湯栓 (NT-2) と、混合水栓 (KG-2) があります。



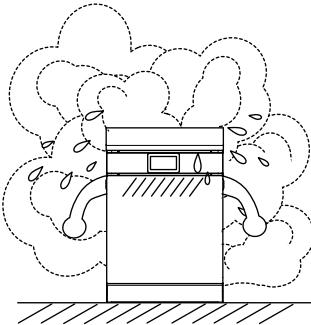
埋め込み配管型 (MZ-1N3P)

2. 設置場所の確認

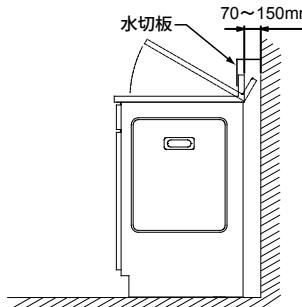
チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
設置環境	凍結しない場所ですか? 凍結の可能性がある場所では、各配管に対しヒーターや保温材を巻くなどの凍結予防処置を施してください。	<input type="checkbox"/>
メンテナンススペース	水切板を取り付ける場合、天板を取り外せるようにしてください。 天板が取り外せないと、修理やメンテナンスの際に交換することができません。	<input type="checkbox"/>
取付床面	水平な床面ですか? 水平でない場合はお取り付けいただくことができません。	<input type="checkbox"/>
	満水質量に耐えられる床面ですか? 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	<input type="checkbox"/>
電圧	定格電圧の±10%以内ですか? 電圧が範囲内に収まっていないと、性能を十分に発揮できない場合や、故障・火災の原因にもなりますので、一時変動がある場合にも定格電圧の±10%以内の電圧であることを確認してください。	<input type="checkbox"/>
給水圧力	給水圧力は0.1~0.5MPaの間になっていますか? 給湯器が正しく作動しませんので、必ず上記範囲内の給水圧力があることを確認してください。	<input type="checkbox"/>

設置場所は屋内の湿気の少ない場所を選んでください。



水切板を取り付ける場合は、天板を上方向に取り外せるよう、本体と壁の間をあけてください。



ES-DWUBシリーズの離隔距離

本製品は「消防法設置基準」に基づく試験基準に適合しております。建築物の可燃物等からの離隔距離は、表に掲げる値以上の距離を保ってください。

注)水切板を取り付ける場合は、天板を上方向に取り外せるよう、本体と壁の間を70~150mmあけてください。

消防法 基準適合 組込形

場所	離隔距離(cm)
上方	0
左方	0
右方	0
前方	0
後方	0
下方	0

工事要領

施工する

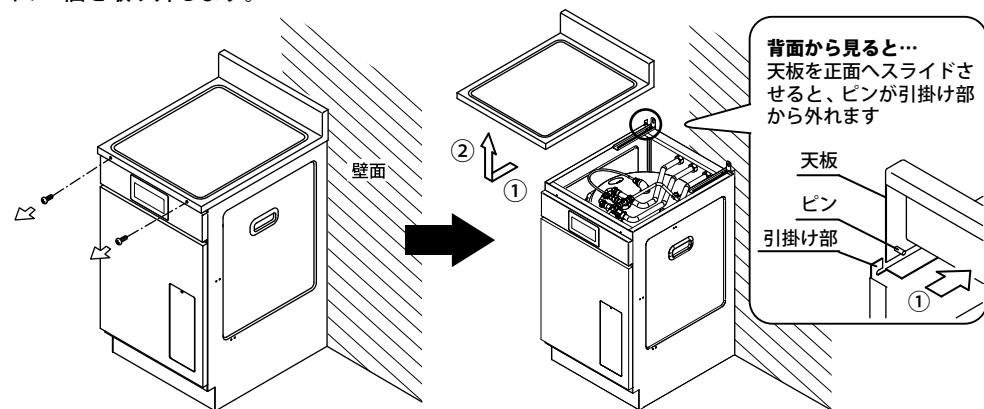
施工する

1. 設置工事

【天板の取り外し方】

天板と操作パネル上部の間にある、固定ネジ2個を取り外します。

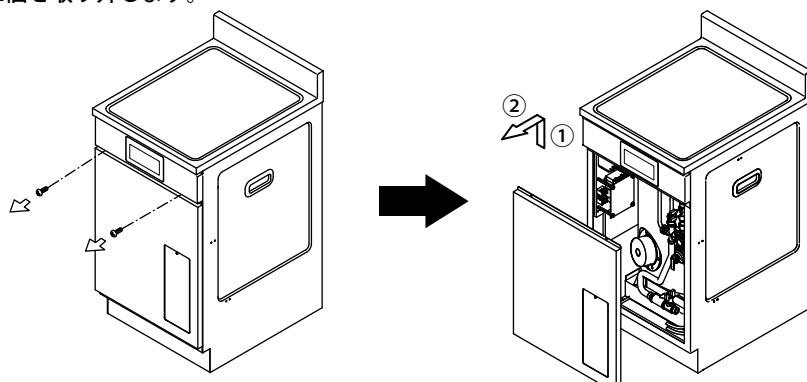
①、②の手順で天板を取り外してください。



【前扉の取り外し方】

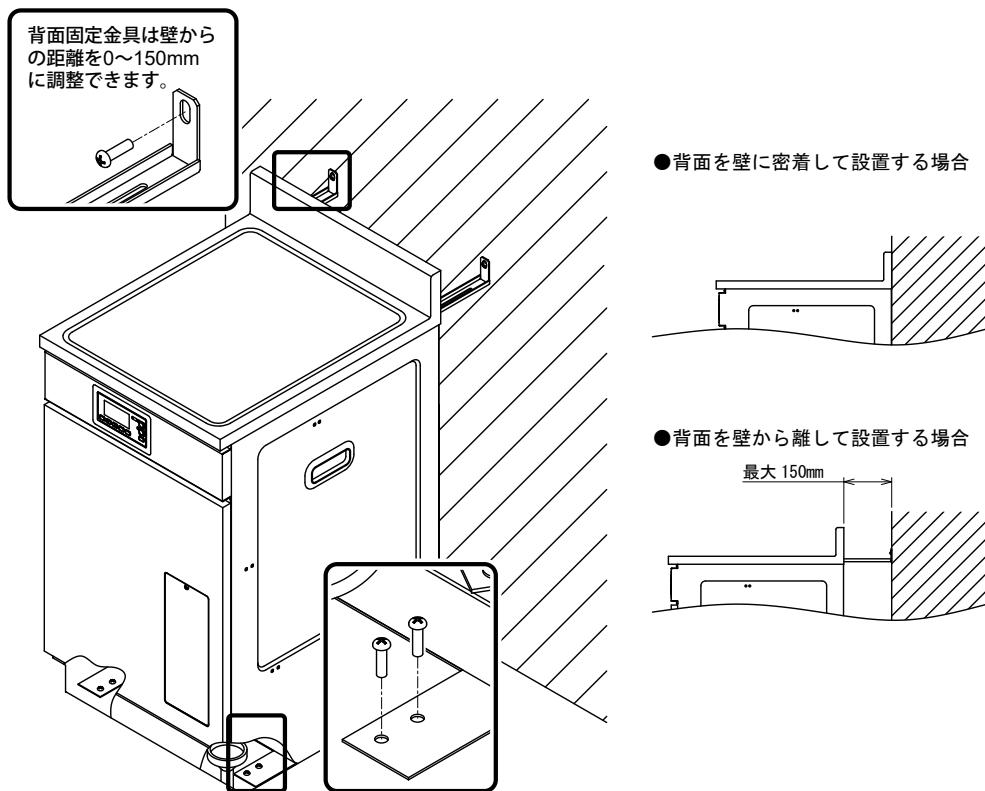
操作パネル下部と前扉の間にある、固定ネジ2個を取り外します。

①、②の手順で前扉を取り外してください。

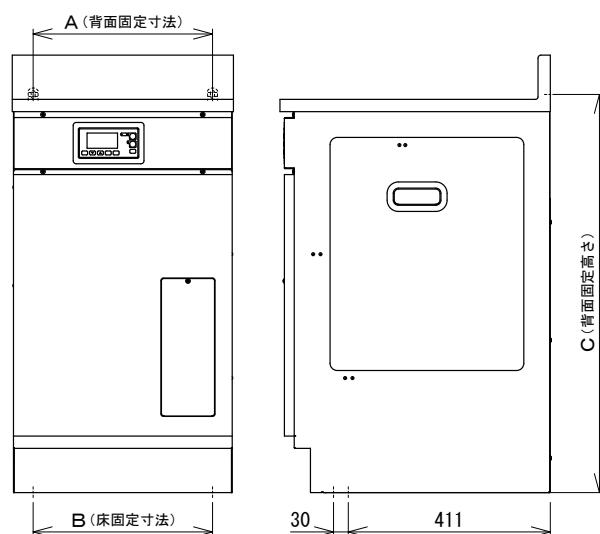


【給湯器の固定方法】

背面2箇所、底面4箇所をそれぞれアンカーボルト等(お客様手配品)でしっかりと固定してください。



【給湯器の固定寸法】



型式	A	B	C
ES-50DWUB-LC (6) (H800)	379	365	810
ES-50DWUB-LC (6) (H850)	379	365	860
ES-80DWUB-LC (6) (H800)	529	515	810
ES-80DWUB-LC (6) (H850)	529	515	860

工事要領

施工する

2. 配管工事

お願ひ

(以下の『標準配管図』参照)

配管作業は、天板および前扉を取り外して行って下さい。

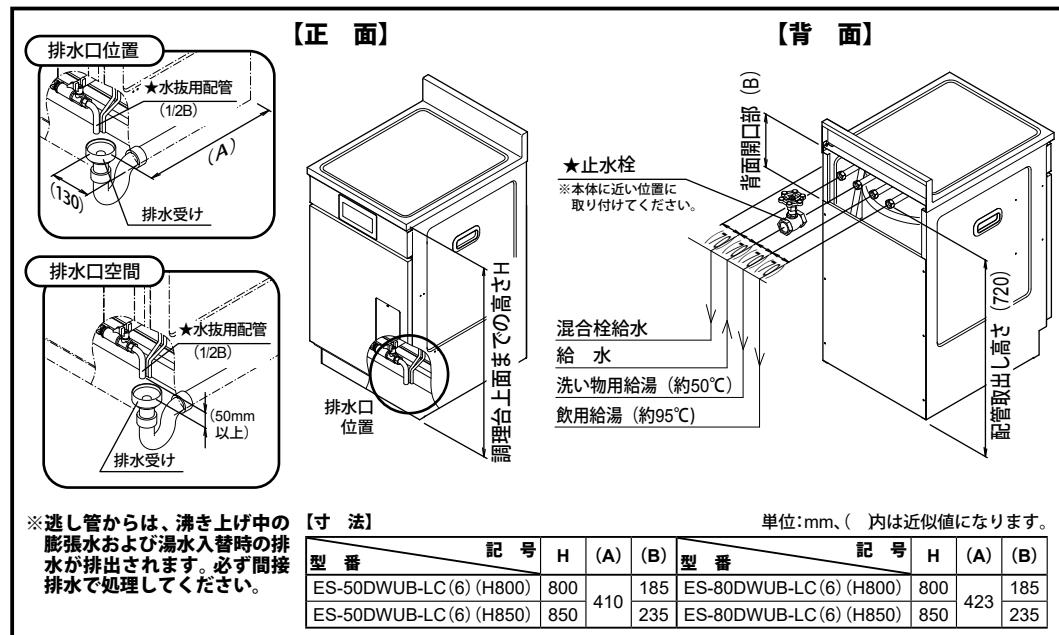
本製品は先止め式の給湯器なので、通電中に逃し管より膨張水が排出されます。
逃し管の先は間接排水処理を施し、プラグなどでふさがないでください。

排水口空間は50mm以上とってください。

給水配管の一次側(給湯器に水が供給される側)に止水栓(給水バルブ)を取り付けてください。

止水栓(給水バルブ)は本体に近く操作しやすい位置に取り付けてください。

◆標準配管図



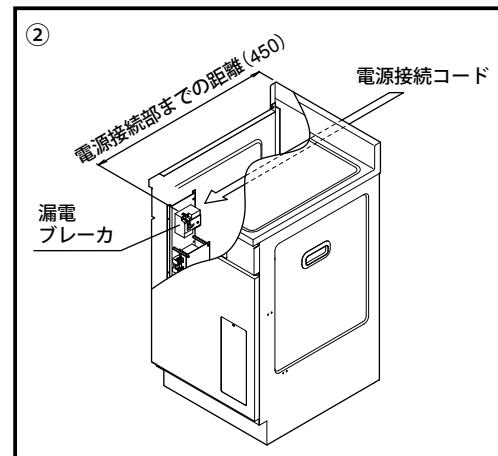
★お客様手配品

3. 電気工事

お願い

他の電力負荷が無くなったとき、または夜間に、電圧が高くなることがありますので、電圧は定格電圧の±10%以内かどうか測定してください。

- ①電源一次側にお客様手配品の漏電ブレーカを取り付け、D種接地工事を行ってください。
- ②電源コードを本体後部より引き込み、本体内部の漏電ブレーカに接続してください。



4. 施工後の確認

次のチェック内容を点検してください。

チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
設置工事	給湯器にがたつきがないこと	<input type="checkbox"/>
	底面および背面はアンカーボルトで固定されていますか？	<input type="checkbox"/>
配管工事	給水管や給湯管の接続部分にゆるみがないこと	<input type="checkbox"/>
電気工事	外部の漏電ブレーカが正しく作動していること	<input type="checkbox"/>
	D種接地工事を正しく行っていること	<input type="checkbox"/>

工事要領

試運転を行う

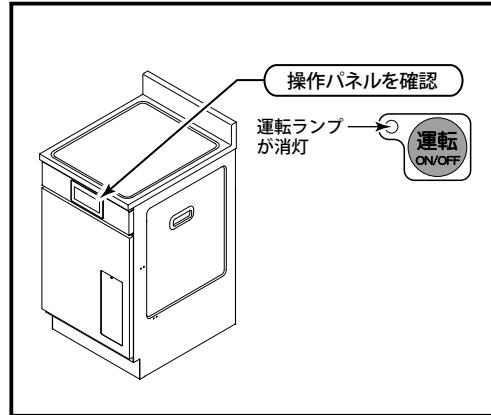
試運転を行う

お願い

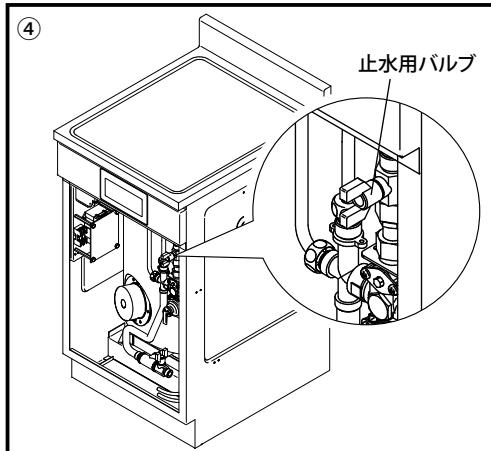
施工後に試運転を行ってください。操作パネルの各部名称や使用方法については、製品に別途付属の取扱説明書をご参照ください。

1. 給湯器に給水する

- ①操作パネルの運転スイッチがOFFになっていることを確認してください。
・運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが消灯している状態です。

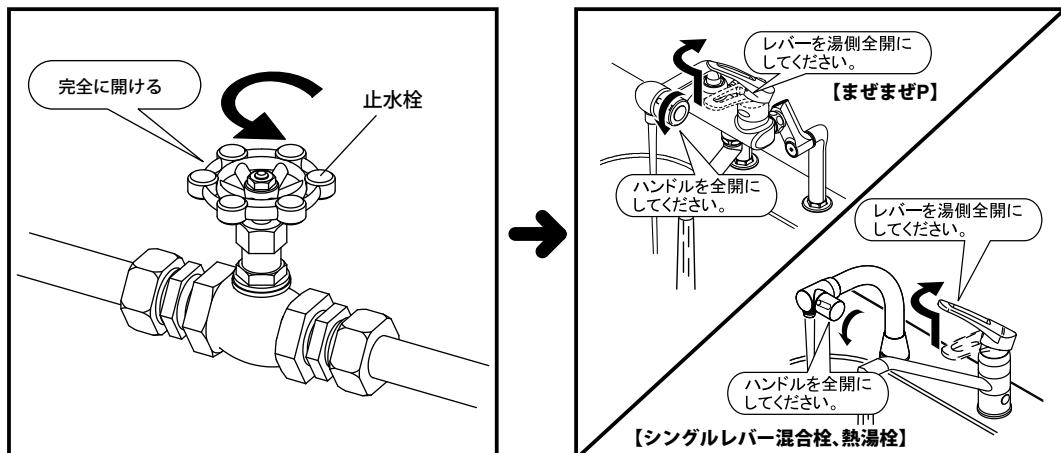


- ②調理台の天板を取り外してください。
(→P.11『天板の取り外し方』参照)
- ③調理台の前扉を取り外してください。
(→P.11『前扉の取り外し方』参照)
- ④止水用バルブが全開になっていることを確認してください。



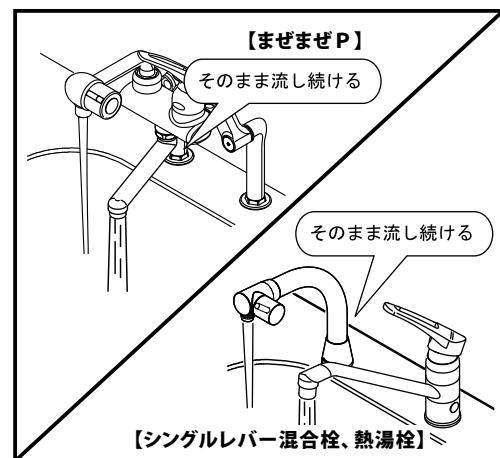
⑤給水接続配管一次側の止水栓を全開にしてから混合栓、熱湯栓の湯側を全開にし、水の量が安定するまで流し続けます。(給湯器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。)

空気を含まない安定した水が混合水栓から出るまで、給水を続けてください。

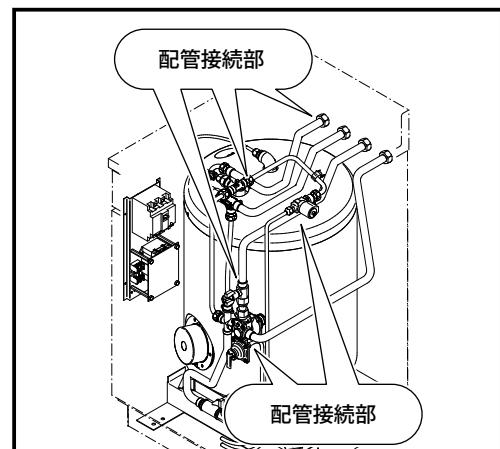


(注)図の各部品は一例で、お客様が手配されたものにより形状が異なります。図と異なる部品の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、部品の取扱説明書をご覧ください。

⑥タンク内が満水になり、水栓から出る水の量が安定したら、配管内の汚れを流し出すため、そのまましばらく流し続けてください。



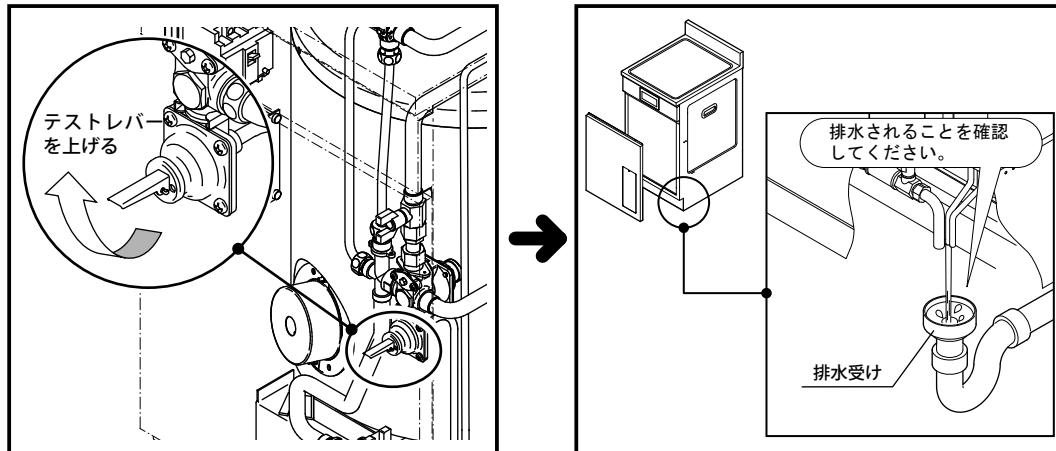
⑦混合栓、熱湯栓を閉めてから、それぞれの配管接続部から水が漏れていないか確認してください。



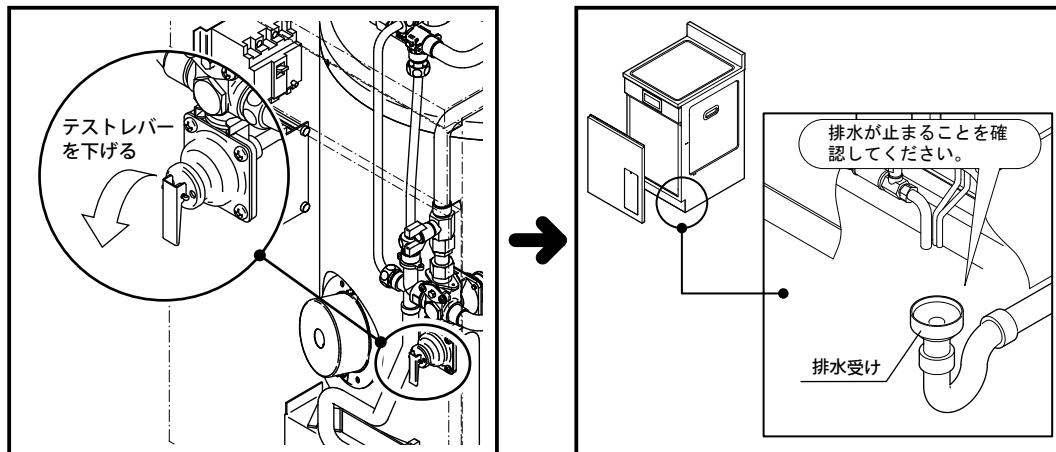
工事要領

試運転を行う

⑧逃し弁のテストレバーを上げて、逃し管からの排水を確認してください。



⑨排水が確認できたら、逃し弁のテストレバーを下げる水が止まることを確認してください。



お願い

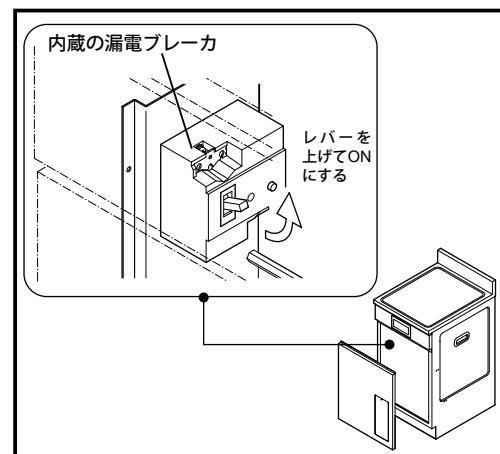
テストレバーは必ず元に戻してください。テストレバーを上げたままにすると、逃し弁から水が排出され続け、設定温度に沸かし上げることができません。

⑩天板と前扉を取り付けてください。

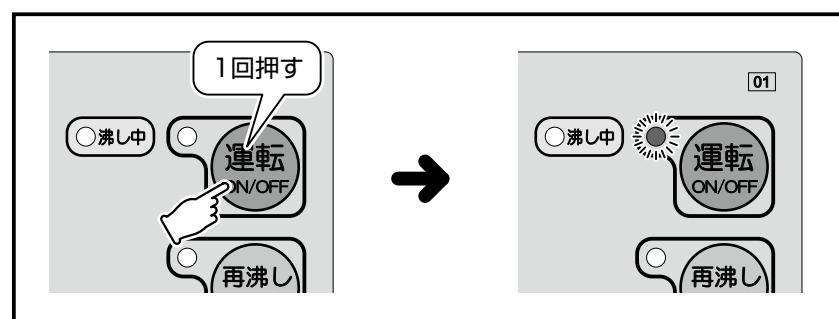
2. 試運転を行う

①電源を供給するため、外部に取り付けたお客様手配品の漏電ブレーカをONにしてください。

②調理台の前扉を外して本体内蔵の漏電ブレーカをONにして電源を入れてください。(前扉の外し方→P.11『前扉の取り外し方参照。』)



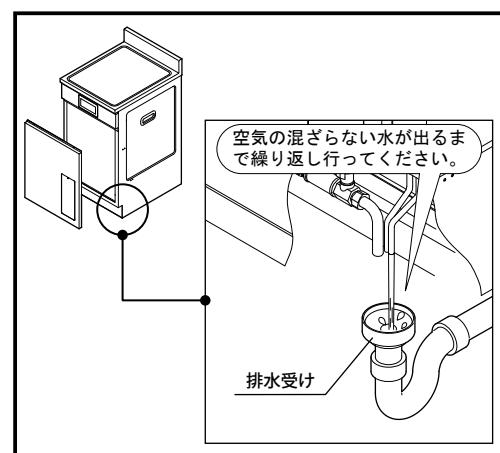
③操作パネルの運転スイッチを1回押してください。「ピッ」という操作音とともに自動運転を開始し、運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが点灯します。



④運転を開始すると、間欠エア抜き弁が1秒間作動し、タンク内に溜まった空気が逃し管より排出されます。

空気を完全に抜くために、運転スイッチを3秒以上押して自動運転をOFFにします。

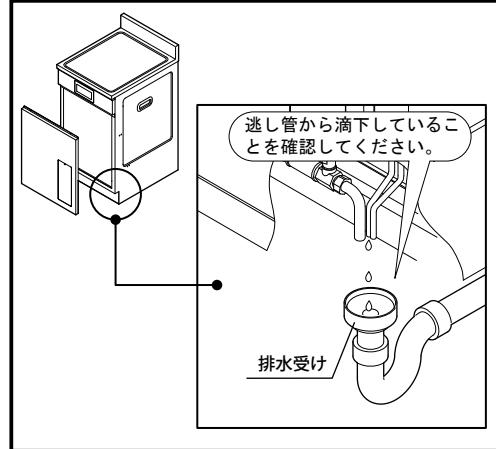
5秒以上待ってから再び自動運転をONにします。逃し管から空気の混ざらない水が排出され、止まるごとに確認できるまでこれを繰り返してください。(4~5回)



工事要領

試運転を行う

- ⑤沸かし上げ中に、逃し管から水が滴下しているかどうか確認してください。確認出来たら設定温度に沸き上がるまでお待ちください。(沸かし上げ時間→P.27『沸き上がり時間』参照。)

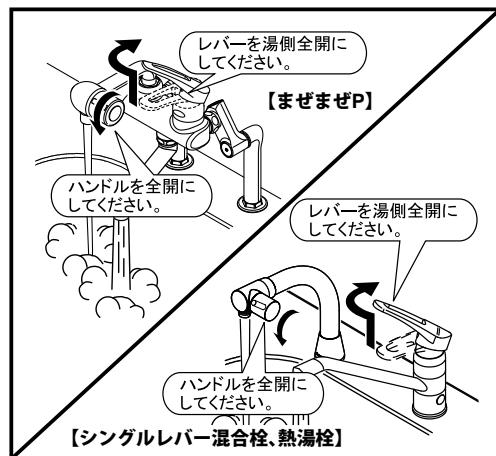


- ⑥お湯が沸き上がった後、混合栓、熱湯栓の湯側を開いてお湯が出れば、運転は正常です。確認後は混合栓、熱湯栓を閉め、前扉を取り付けてください。

※混合湯、熱湯を同時に出す場合はP.27『ワンポイント』をご確認ください。



確認の際には、熱湯にご注意ください。
やけどのおそれがあります。



3. 試運転後の確認

次のチェック内容を点検してください。

チェックリスト

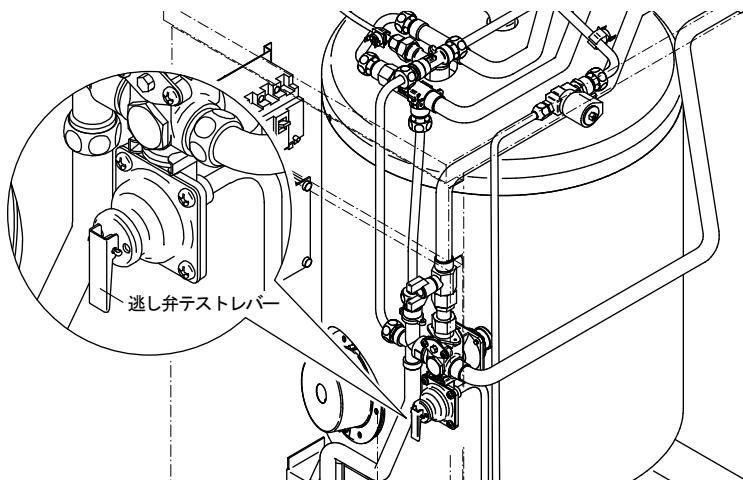
項目	チェック内容	チェック
漏 水	各配管、継手から漏水していない	<input type="checkbox"/>
ストレーナー	ストレーナーの中にゴミ詰まりがない (ストレーナーは減圧弁に内蔵されています。)	<input type="checkbox"/>
逃し弁	テストレバーが下がっている (P.15『給湯器に給水する』を参照。)	<input type="checkbox"/>
給 湯	混合水栓の湯側を開くとお湯が出る	<input type="checkbox"/>

4. 試運転後に必ず行ってください

以上で、施工および試運転は終了です。

本製品をご使用になられる方、または管理技術者の方に対し、次の事を必ず行ってください。

- 施工作業や試運転について、簡単にご報告ください。
- 逃し弁のテストレバーが下がっている状態を確認した上で、お客様にその旨をご報告ください。(→P.23『使用前の準備と確認』を参照。)



- お客様が止水栓(給水バルブ)を取り扱う場合がありますので、止水栓(給水バルブ)の取り付け位置をお伝えください。(→P.23『使用前の準備と確認』を参照。)

- 本書を含む取扱説明書はすべて、本製品をご使用になられる方、または管理技術者の方にお渡しください。

工事要領

MEMO

取扱説明

正しく安全にお使いいただきため、必ずお読みください。

使用方法

1. 使用前の準備と確認

次のチェック内容を点検してください。

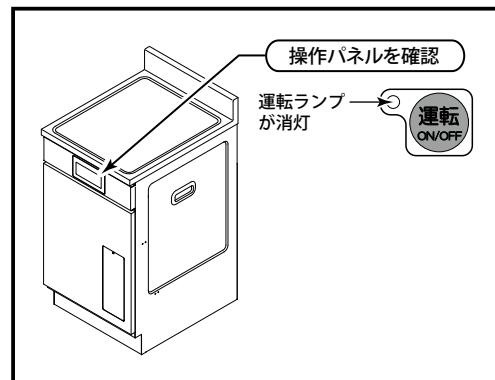
チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物がないですか？	<input type="checkbox"/>
	本体の上には物などを載せていませんか？	<input type="checkbox"/>
	逃し弁が吹き出していますか？	<input type="checkbox"/>
	止水栓の取り付け位置が確認できますか？	<input type="checkbox"/>

2. 給湯器に給水する

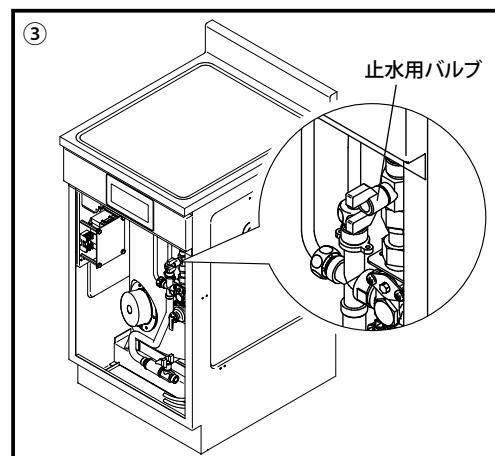
- ①操作パネルの運転スイッチがOFFになっていることを確認してください。(運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが消灯している状態です。)

※ON(運転ランプが点灯)になっている場合は、運転スイッチを3秒以上押してOFFにしてください。



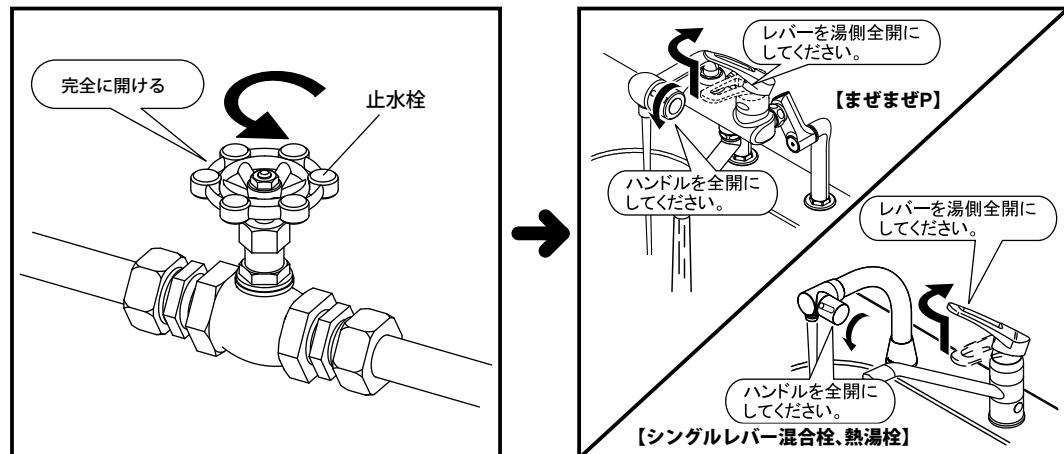
- ②調理台の前扉を取り外してください。
(→P.11『前扉の取り外し方』参照)

- ③止水用バルブが全開になっていることを確認してください。



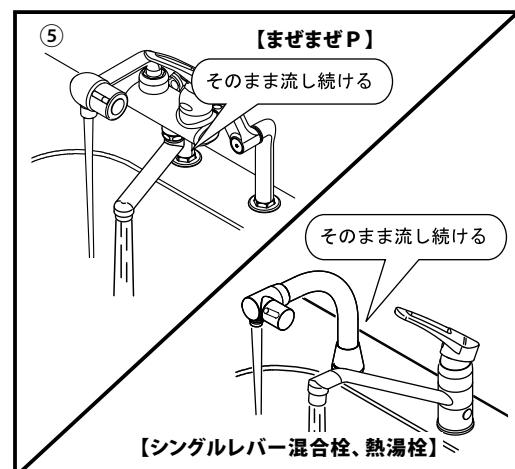
- ④ 給水接続配管一次側の止水栓を全開にしてから混合栓、熱湯栓の湯側を全開にし、水の量が安定するまで流し続けます。(給湯器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。)

空気を含まない安定した水が混合水栓から出るまで、給水を続けてください。



注)図の各部品は一例で、お客様が手配されたものにより形状が異なります。図と異なる部品の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、部品の取扱説明書をご覧ください。

- ⑤ タンク内が満水になり、水栓から出る水の量が安定したら、配管内の汚れを流し出すため、そのまましばらく流し続けてください。
- ⑥ しばらく流したら混合栓、熱湯栓を閉めてください。



3. 運転する

本製品は運転スイッチを押すと工場出荷時に設定された「おすすめプログラム」に従って自動でお湯を沸かします。

【おすすめプログラム設定内容】

設定内容	タイマー1	タイマー2
運転時間	6:30～18:30	6:30～12:30
運転曜日	月～金	設定なし

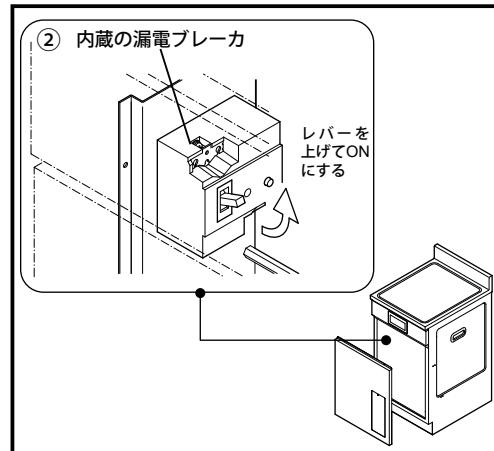


本書では基本的な使用方法のみを説明しておりますので、「おすすめプログラム」および操作パネルの詳しい操作方法は製品に付属の給湯コントローラー取扱説明書をご参照ください。

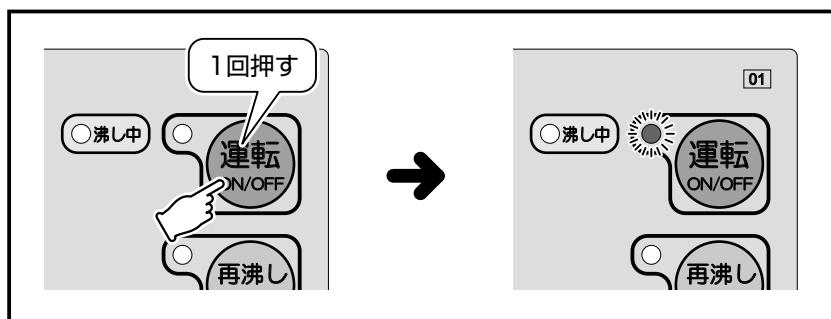


①一次側の漏電ブレーカをONにしてください。

②本体内蔵の漏電ブレーカをONにして電源を入れてください。

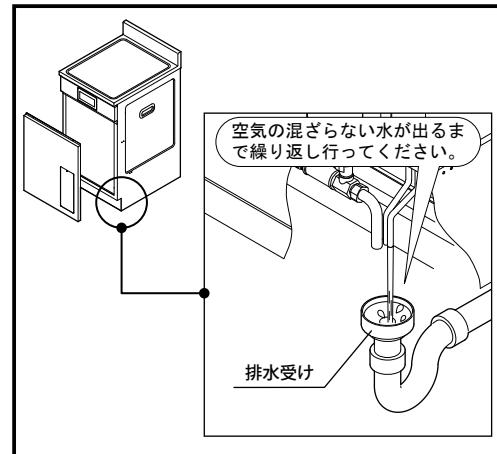


③操作パネルの運転スイッチを1回押してください。「ピッ」という操作音とともに自動運転を開始し、運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが点灯します。

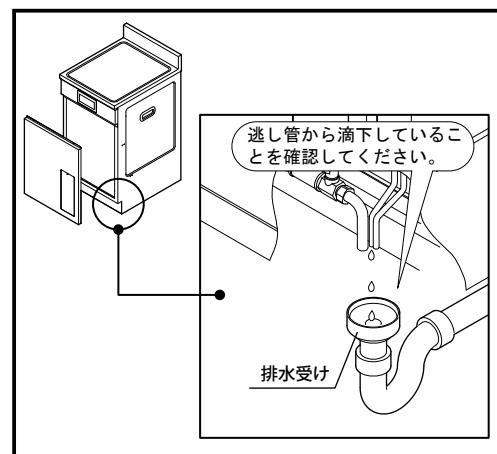


- ④ 運転を開始すると、間欠エア抜き弁が1秒間作動し、タンク内に溜まった空気が逃し管より排出されます。

空気を完全に抜くために、運転スイッチを3秒以上押して自動運転をOFFにします。5秒以上待ってから再び自動運転をONにします。逃し管から空気の混ざらない水が排出され、止まるごとに確認できるまでこれを繰り返してください。(4~5回)



- ⑤ 沸かし上げ中に、逃し管から水が滴下しているかどうか確認してください。確認出来たら設定温度に沸き上がるまでお待ちください。(沸かし上げ時間→P.27『沸き上がり時間の目安』参照。)

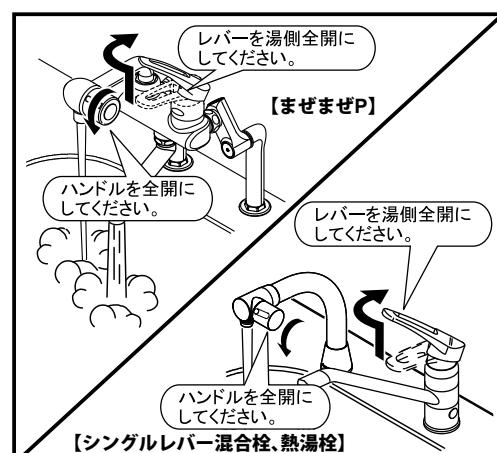


- ⑥ お湯が沸き上がった後混合栓、熱湯栓の湯側を開いてお湯が出れば、運転は正常です。確認後は混合栓、熱湯栓を閉め、前扉を取り付けてください。

* 混合湯、熱湯を同時に出す場合はP.27『ワンポイント』をご確認ください。



確認の際には、熱湯にご注意ください。
やけどのおそれがあります。



取扱説明

使用方法

沸き上がり時間の目安

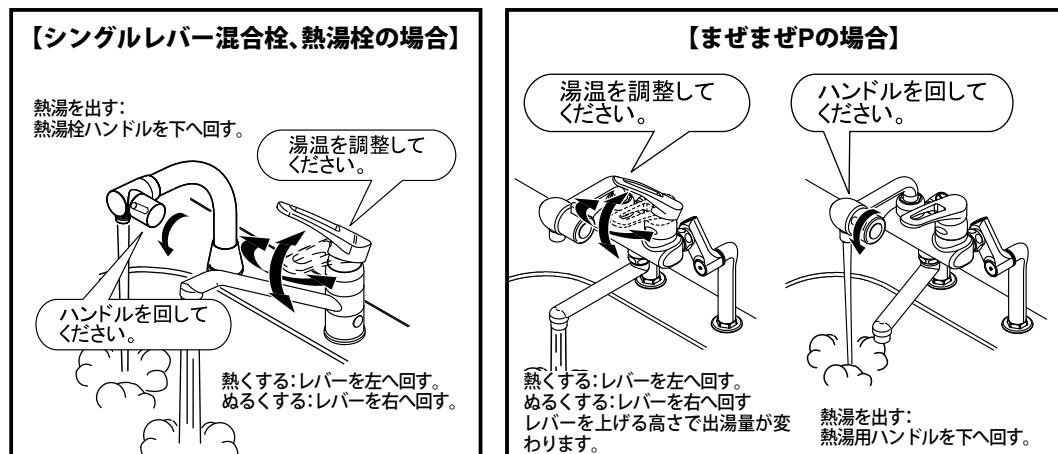
項目 型番	定格電圧 単相200V	貯湯量(リッ) 50 80	標準ヒーター 容量(kW) 3.1	沸き上がり時間※1			使用範囲の 目安(人)※2 約400 〃640	
				給水温				
				5°C	15°C	25°C		
ES-50DWUB-LC(6)		50		102分	91分	79分	約400	
ES-80DWUB-LC(6)		80		163分	145分	127分	〃640	

※1: 沸き上がり時間の算出: 沸き上がり温度95°Cの場合。

※2: 使用範囲の目安: 飲用可能温度を80°Cとし、100cc/杯として算出。

4. 出湯する

設定温度までお湯が沸き上がったら、混合栓または熱湯栓を開いて出湯してください。混合栓は湯温を調整しながらお使いください。(現在湯温は操作パネルにデジタル表示されています。)



注)図は一例で、お客様が手配されたものにより形状が異なります。図と異なる混合水栓または熱湯栓の取り扱いについては、ご購入先やメーカーにお問い合わせになるか、水栓の取扱説明書をご覧ください。

ワンポイント

P

混合湯、熱湯を同時に出す場合

○シングルレバー混合栓・熱湯栓をご使用の場合は…
熱湯栓を全開にすると、熱湯優先となっているため混合栓からは水しか出ません。

○まぜまぜPをご使用の場合は…
混合栓、熱湯栓両方からお湯が出ますが、共に出湯量は少なくなります。

お手入れの方法

保守点検項目と実施の目安

点検項目	点検内容	点検の目安
漏電ブレーカの作動	内蔵の漏電ブレーカにあるテストボタンを押して、漏電ブレーカの動作を確認してください。確認後は漏電ブレーカのレバーを完全に下げ、一度OFFにしてから、ONにしてください。(P.18『試運転を行う』の図を参照。)	1回／月
重要 逃し弁の動作点検	逃し弁用の逃し管から常時水が出ていないか確認してください。(P.31『逃し弁の動作確認』参照。)逃し管から勢いよく水が出ている場合は修理、交換が必要です。	
重要 間欠エア抜き弁の動作点検	間欠エア抜き弁用の逃し管から常時水が出ていないか確認してください。(P.33『間欠エア抜き弁の動作確認』参照。)逃し管から常時水が出ている場合は修理、交換が必要です。	
ストレーナーの清掃	ストレーナーにゴミが詰まっていないか確認してください。(P.34『ストレーナーの清掃』参照。)	日常
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	1回／日
タンク内の清掃	給水栓および給湯栓を全開にして、タンク内の水を強制的に入れ替えてください。	1回／年

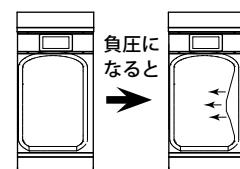
長期間使用しないときは

長期にわたって給湯器をご使用にならない場合には水質劣化を防ぐため、また、負圧事故によるタンクの破損を防ぐため、タンク内のお湯を必ず抜いてください。

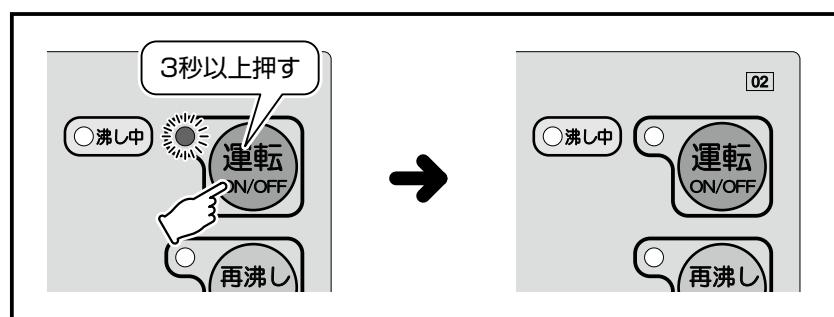
負圧とは？

タンク内の圧力が大気圧を下回った状態で、断水中や給水量が少ない状態で排水を行ったときに発生します。

負圧になるとタンク内の圧力が低くなり、右図のようにタンクがへこんで破損してしまいます。



- ① 運転スイッチを3秒以上押してOFFにしてください。自動運転を停止すると運転スイッチのすぐ横にある運転ランプが消灯します。



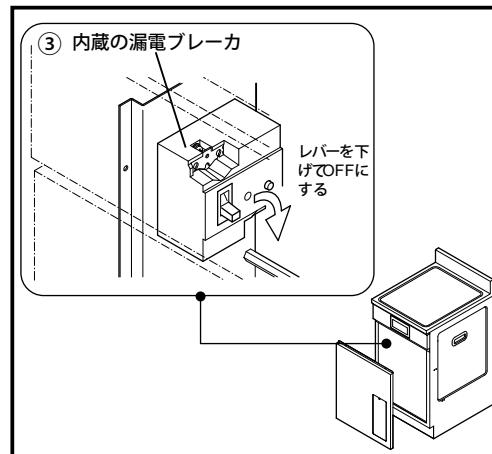
取扱説明

お手入れの方法

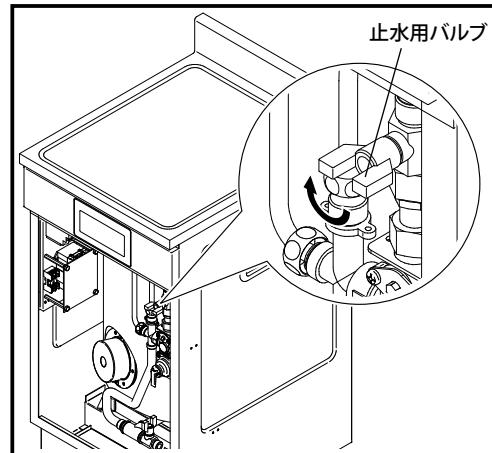
② 調理台の前扉を取り外してください。(前扉の外し方→P.11『前扉の取り外し方参照。』)

③ 本体内蔵の漏電ブレーカをOFFにしてください。

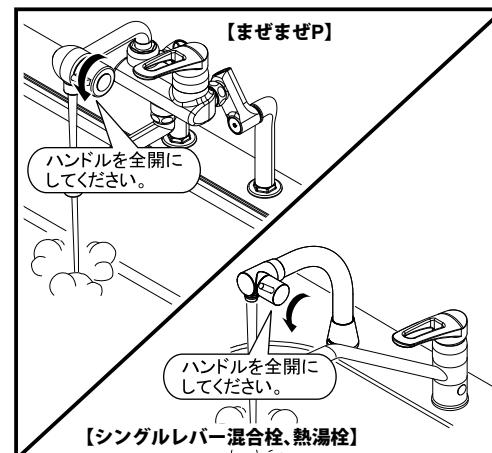
④ 一次側の漏電ブレーカをOFFにしてください。



⑤ 混合水栓の湯側を開け出湯を行います。排水管保護のため、お湯の温度を調整しぬるい温度で出湯を行ってください。タンク内が完全に水になるまで出し切ったら、止水用バルブを完全に閉めます。



⑥ 給湯用ハンドルを全開にしてください。

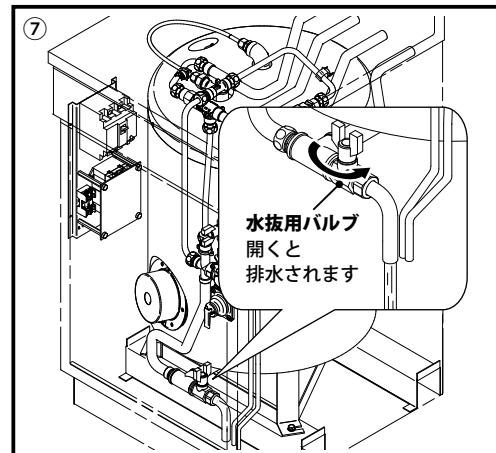


⑦ 本体内部にある水抜用バルブを開いて排水してください。

⑧ 排水後は給湯用ハンドルを閉め、必ず水抜用バルブを閉めてください。

⑨ 最後に前扉を取り付けてください。

※上記の方法で水が抜けにくい場合は、アフターサービス窓口までお問い合わせください。



お願い

長期間使用しない場合は本体内蔵の漏電ブレーカーを OFF にしてください。

タンクが空のときは運転スイッチを ON にしないでください。
故障の原因となります。

長期間使用しない場合はタンクの水を抜いてください。
凍結してタンクが破損したり、水質が悪化するおそれがあります。

短期間使用しないときは

短期間温水器を使用しない場合には、状況に応じてそれぞれ下記の対処を行ってください。

●ご使用を停止する場合

・運転をOFFにしてください。

※タンクが負圧となり破損する原因となるため、止水栓を閉めないでください。

●停電の場合

・温水器の操作、止水栓の開閉等、機器や配管に対処する必要はありません。

停電からの復旧をお待ちください。

●断水の場合

・止水栓を閉め、断水が終了するまでお待ちください。

※タンクが負圧となり破損する原因となるため、運転をOFFにしないでください。

取扱説明

お手入れの方法

凍結防止対策

凍結のおそれがある場合は次のどちらかの方法にて機器の凍結予防措置を行ってください。

〈機器の運転を継続しつつ凍結を予防する場合〉

機内温度を氷点下にしないために、機器の通電を継続し沸かし上げを続けてください。また、凍結の可能性がある場所では各配管に対し、ヒーターや保温材を巻く等の凍結予防処置を施してください。

〈機器の運転を停止し凍結を予防する場合〉

・以下の方法で水抜きを行ってください。

①止水栓を閉じる

②水栓を開けて機器内部の圧力を開放する

③給水口の配管を外すか、給水口手前(一次側配管)の水抜き栓を開ける

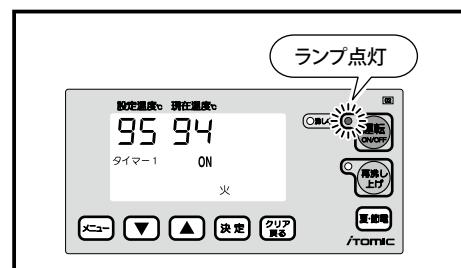
※水抜き後、給水口の配管を外した場合は外したままにし、水抜き栓を開けた場合は閉めず
に開放しておく。

※水抜きが完全ではない場合には電気温水器内部に水が残り、凍結により製品が破損してしま
う可能性があります。また、再使用時には通水し沸き上げの確認を行い、漏水などがない
かご確認ください。

逃し弁の動作確認

逃し弁が作動しなくなるとタンクの破損や事故の原因となります。定期的に逃し弁の動作確認を行ってください。正常に動作しない場合は、アフターサービス窓口までご連絡ください。

①操作パネルの運転ランプが点灯していることを確
認してください。

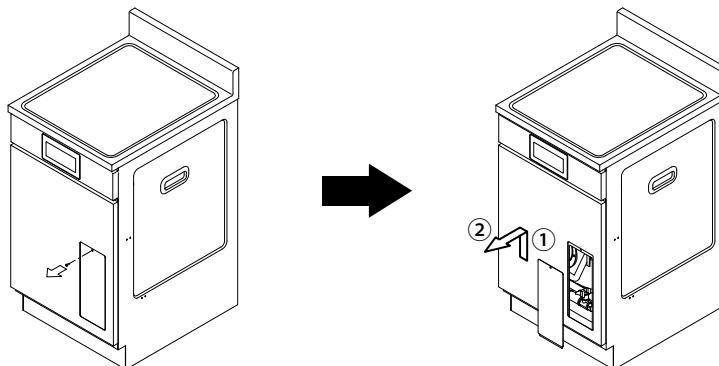


②逃し弁点検口を取り外してください。

【逃し弁点検口の取り外し方】

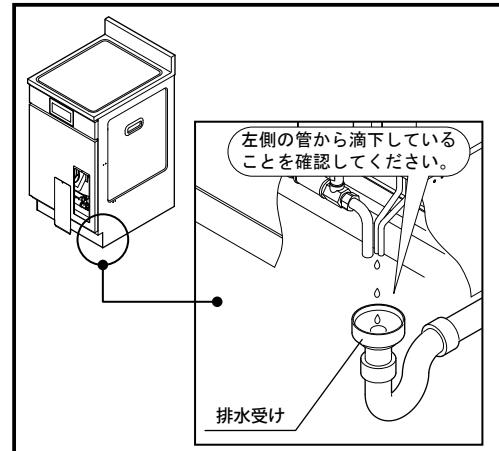
逃し弁点検口の固定ネジを取り外します。

①、②の手順で点検口を取り外してください。

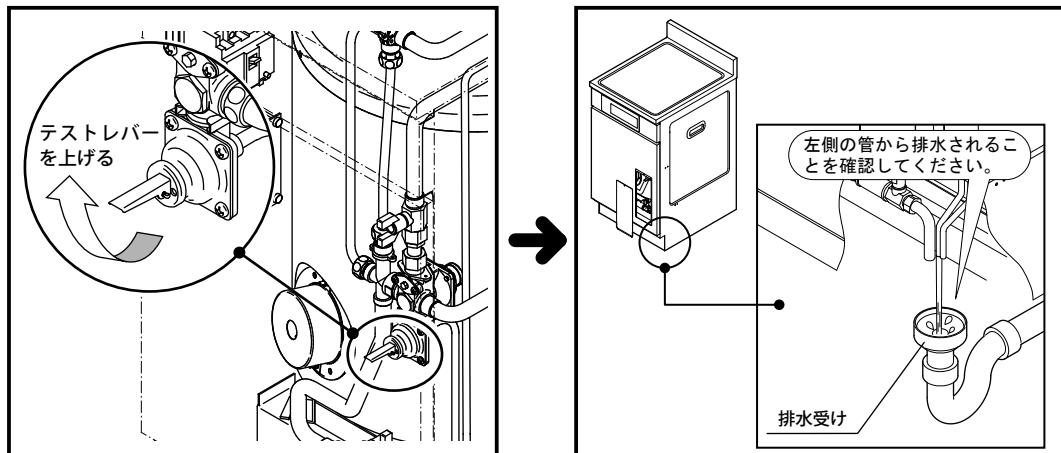


③ 逃し弁テスストレバーが下がっていること、逃し弁用の逃し管(2本の逃し管のうち左側)から間接排水が正常に行われていることを確認してください。滴下を確認できれば正常です。

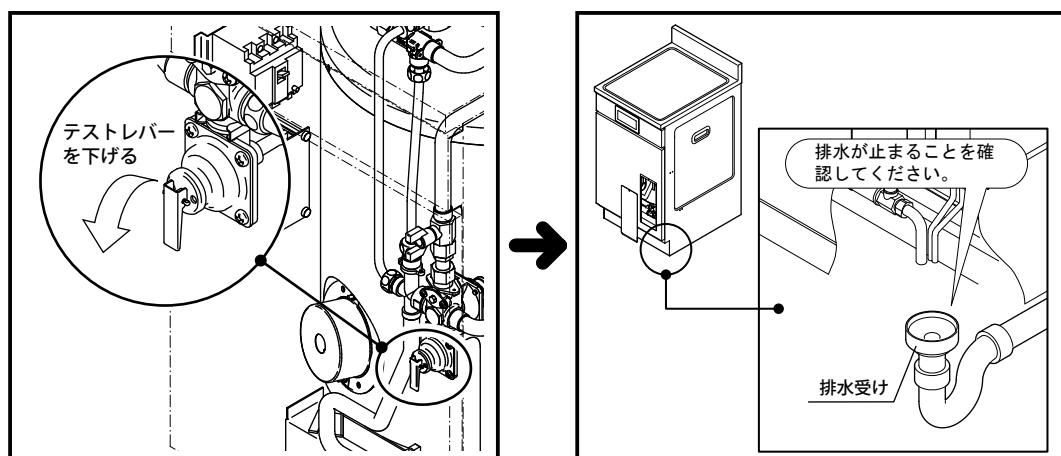
※勢い良く水が出ている場合は修理、交換が必要です。



④ 次に逃し弁のテスストレバーを上げて、逃し管からの排水を確認してください。(逃し弁用の逃し管からの排水を確認できれば正常です。)



⑤ 排水が確認できたら、逃し弁のテスストレバーを下げて水が止まるることを確認してください。



取扱説明

お手入れの方法

お願い

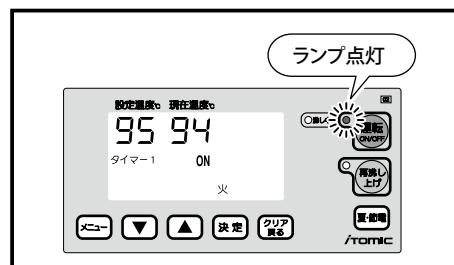
テスストレバーは必ず元に戻してください。テスストレバーを上げたままにすると、逃し弁から水が排出され続け、設定温度に沸かし上げることができません。

- ⑥ 逃し弁点検口を取り付けて終了です。

間欠エア抜き弁の動作確認

間欠エア抜き弁が作動しなくなるとタンク内に溜まった空気や水蒸気が給湯の際に吹き出して、やけどをするおそれがあります。定期的に間欠エア抜き弁の動作確認を行ってください。

- ① 操作パネルの運転ランプが点灯していることを確認してください。

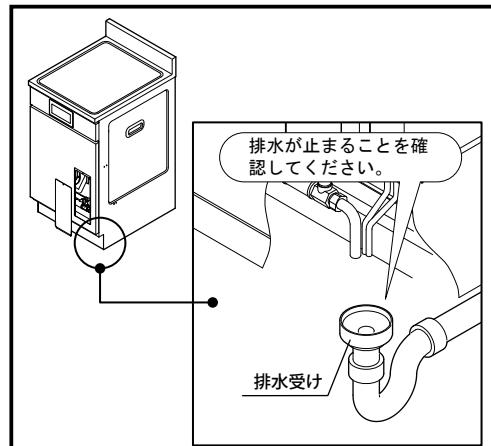


- ② 逃し弁点検口を取り外してください。
(→P.31『逃し弁点検口の取り外し方』参照)

- ③ 逃し弁テスストレバーが下がっていること、間欠エア抜き用の逃し管(2本の逃し管のうち右側)からお湯が排出されていないことを確認してください。

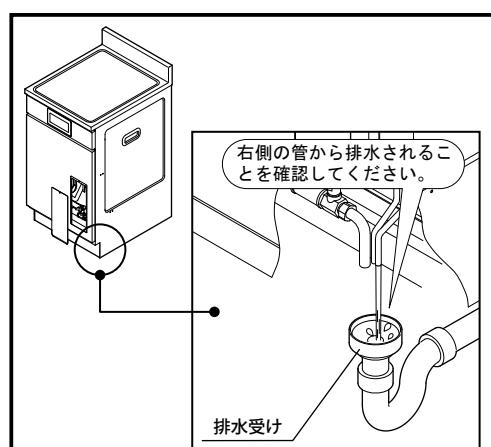
間欠エア抜き弁は30分に1回作動し、タンク内に溜まった空気や水蒸気(45°C以下)を排出します。また運転ランプが点灯しているときは、左側の逃し弁用の逃し管から膨張水が排出されます。

※勢い良く水が出ている場合は修理、交換が必要です。



- ④ 運転スイッチを3秒以上押してOFFにしてください。5秒以上たってから再び運転スイッチをONにします。スイッチONと同時に間欠エア抜き弁が1秒間作動し、タンク内に溜まった空気と水蒸気(45°C以下)が間欠エア抜き弁用の逃し管より排出されます。排水を確認できれば正常です。

- ⑤ 逃し弁点検口を取り付けて終了です。





間欠エア抜き弁の内部にゴミが付着すると湯が流れ続ける場合があります。そのような時は、運転スイッチもしくは自動運転のON/OFF操作を1~2回※繰り返してみてください。それでも流れ続ける場合はアフターサービス窓口までご連絡ください。
※過度にON/OFF操作を行うと故障の原因となりますのでご注意ください。

ストレーナーの清掃 管理技術者の方

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

ストレーナーにゴミが詰まると混合栓から出る湯の量が少なくなります。定期的に清掃を行ってください。

清掃前の準備

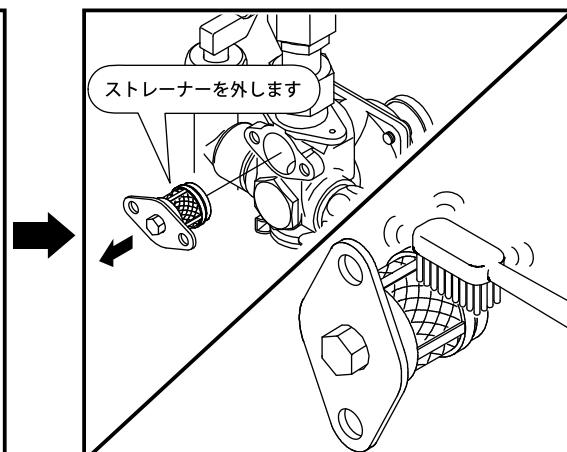
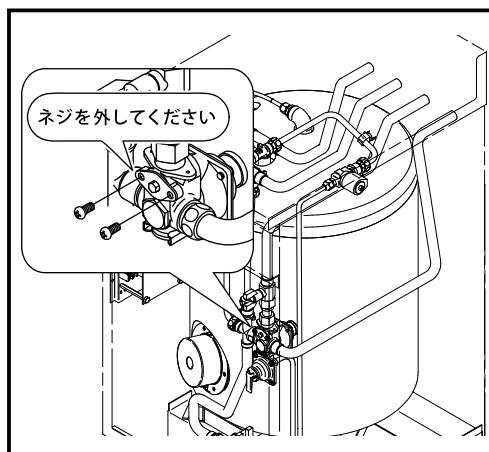
P.28『長期間使用しないときは』をご参照の上、排水を行ってください。

清掃を行う

①調理台の前扉を取り外してください。(前扉の外し方→P.11『前扉の取り外し方』参照。)

②ネジを外してストレーナーを引き抜き、フィルター部分に詰まったゴミをナイロンブラシなどで取り除きます。

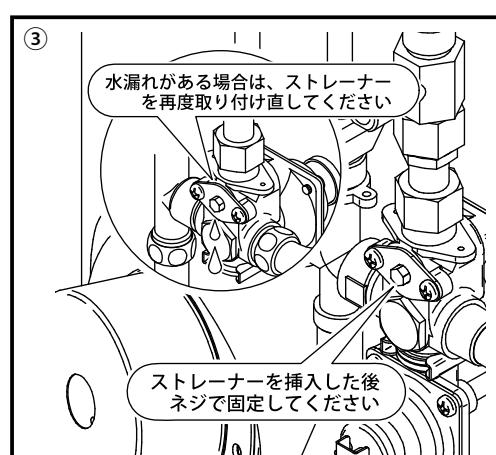
注:ネジを外した時に少量の水が出ますので、水を受けるものをご用意ください。



③ストレーナーを取り付けた後、止水用バルブを元に戻し、給水を行ってください。

④漏水がないか確認してください。漏水があった場合は再度取り付け直してください。(給水方法はP.23『給湯器に給水する』参照)

⑤前扉を取り付けて終了です。

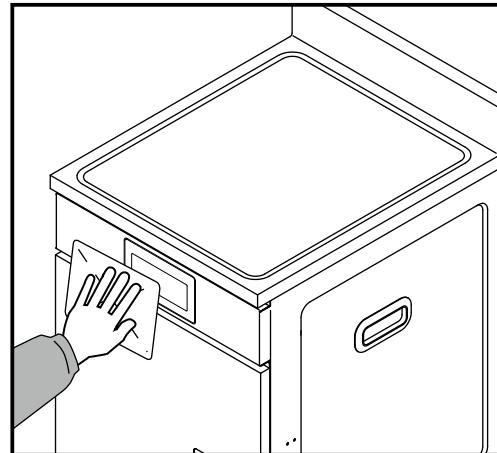


取扱説明

お手入れの方法

外装のお手入れ

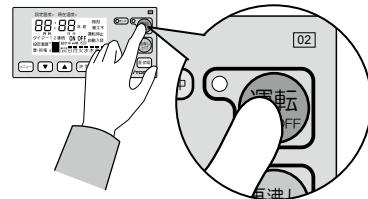
水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



こんなときは 故障かな？と思ったら

ブザーを止めるには

ブザーが鳴った場合には運転スイッチを押してください。



給湯器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。

状況	ご確認ください	対処方法
水もお湯も出ない または出が悪い	断水ではありませんか？	断水中は使用できませんので、断水が終了するまでお待ちください。断水が終了したあと、お湯が濁っている場合には、濁りがなくなるまで出し続けてください。
	止水栓が閉じていませんか？	閉じている場合は開いてください。
	配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていますか？	ストレーナーの清掃を行ってください。→手順P.34『ストレーナーの清掃』参照。
	給水圧力が低すぎませんか？	給水圧力は0.1MPa以上必要です。 ⇒給水圧力が低い場合は管理技術者の方へご相談ください。
	配管が凍結していませんか？	配管内が凍結するとお湯が出ません。凍結防止策を施してください。 ⇒凍結防止策については、管理技術者の方へご相談ください。
	給水量が不足していませんか？	止水栓が閉じていたら開いてください。 減圧弁およびストレーナーの清掃を定期的に行っていない場合、ゴミ詰まり等が考えられます。 ⇒清掃については、管理技術者の方へご相談ください。
	混合水栓、熱湯栓がつまっていますか？	混合水栓、熱湯栓のフィルターを清掃してください。 ⇒管理技術者の方へご相談ください。
湯温が低い または沸き上がり時間が長すぎる	お湯を大量に使用した直後ではありませんか？	瞬間式ではありませんので沸き上がるまで時間がかかります。沸き上がるまでお待ちください。 →P.27『沸き上がり時間の目安』参照
	逃し弁は正常ですか？湯が逃し管から出続けてませんか？	通電時、逃し管からポタポタ出るのは正常ですが常時吹き出しているのは故障です。ゴミがかかるなどにより減圧弁の故障も考えられます。正常に動作していない場合は、アフターサービス窓口までご連絡ください。
	水温が低くありませんか？	秋から冬にかけて水温が急激に下がるため、沸き上がり時間が長くなります。 →P.27『沸き上がり時間の目安』参照
混合給湯口から非常に熱い湯が出る	給湯器の自動混合弁が故障していませんか？	混合給湯口からの給湯温度は最高約50°Cです。 それ以上の温度になっている場合は直ちに使用を中止し、アフターサービス窓口までご連絡ください。

取扱説明

こんなときは

状況	ご確認ください	対処方法
湯が沸かない 湯にならない	停電ではありませんか？	電気の復旧をお待ちください。以下の「停電後の対応について」もご確認ください。
	漏電ブレーカがOFFになっていませんか？	漏電ブレーカ（一次側、内蔵の両方）をONにしてください。
	運転がOFFになっていませんか？	運転をONしてください。
	タイマーの設定が正しく行われていますか？	タイマーの設定をご確認ください。設定方法は給湯コントローラー取扱説明書P.4「タイマー設定について」参照。
	ヒューズが切れていませんか？	ヒューズを取り替えてください。 ⇒管理技術者の方へご相談ください。
	電圧が誤っていませんか？	100Vの給湯器を200Vで使用すると、ヒーターが断線します。200Vの給湯器を100Vで使用することはできません。
	ヒーターの故障ではありませんか？	管理技術者の方に依頼し、ヒーターの導通を測ってください。故障の場合はアフターサービス窓口までご連絡ください。
	安全装置が作動していませんか？	本器には「空焚き検出」および「過昇温検出」兼用装置が装備されています。復帰するには温水器の運転を停止し、管理技術者の方にご依頼ください。リセットの手順はP.39『リセットの方法①』参照。
間欠エア抜き弁用の逃し管から水が出続けていませんか？		一度運転スイッチをOFFにし、水が出続けるか確認してください。 運転スイッチをOFFにしても水が出続けている場合は、運転スイッチを再びONにし、間欠エア抜き弁を動作させてください。 上記の対処で… ①水が止まった場合 間欠エア抜き弁のゴミ噛みです。 管理技術者の方にリセット作業をご依頼ください。(P.40「リセットの方法②」参照) ②水が出続ける場合 間欠エア抜き弁の故障です。 アフターサービス窓口までご連絡ください。
漏水している	本体からですか？	直ちに使用を中止して止水栓を閉め、その旨をアフターサービス窓口までご連絡ください。
	配管接続部からですか？	給水、給湯接続部の場合は締め直してください。
湯が臭い 湯が汚れている	設置直後ではありませんか？	設置直後などは工事の際切削油等が流入することがありますので、水をしばらく出し続けてください。
	長期間の休止後ですか？または断水直後ですか？	休止後は水の汚れや配管内の錆が出ることがあります。水栓から水を出し続けてタンク内の水を入れ替えてください。
湯沸器本体から音がする	沸し上げ中ですか？	沸かし上げ中は湯温の上昇に伴って湯沸器本体から沸かし上げ音がする場合がありますが、故障ではありません。

状況	ご確認ください	対処方法
吐水時に水栓から音がする	出湯されたお湯に空気を含んでいますか？	沸し上げの際、水中に溶けていた空気や水蒸気が発生し、給湯時に湯に混入することで白く濁る場合があります。また、音がしたり、お湯の出方が乱れる場合がありますが故障ではありません。
給水時、給湯器本体や配管が振動音を発する	配管はしっかりと固定されていますか？	給水管に長いフレキ管を使用している場合、しっかりと固定されていないと「ウォーターハンマー現象」が起き、振動音が出ることがありますので、しっかりと固定してください。

その他の不具合およびエラーメッセージについて

その他の不具合および操作パネルに表示されているアラームについては、製品に付属の給湯コントローラー取扱説明書をご参照ください。それでも症状が改善されない場合は、P.42アフターサービス窓口までご連絡ください。

停電後の対応について

停電後は、停電が起こったときの運転状態で復帰します。

自動運転中に停電が起きた場合は自動運転で、運転OFF中に停電が起きた場合は運転OFFで復帰します。

また、停電後には以下のことをご確認ください。

ご確認ください	対処方法
現在年月日、現在時刻の設定は正しいですか？	正しい場合はそのままお使いいただけます。 誤っている場合は、給湯コントローラー取扱説明書P.15『現在年月日・時刻の設定』を参照し、再設定してください。

取扱説明

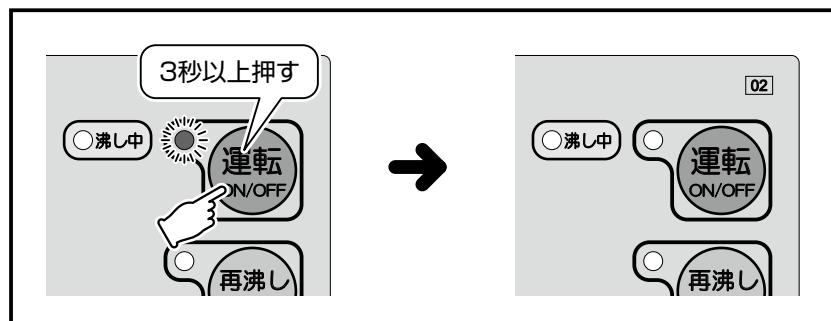
こんなときは

リセットの方法① 管理技術者の方

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

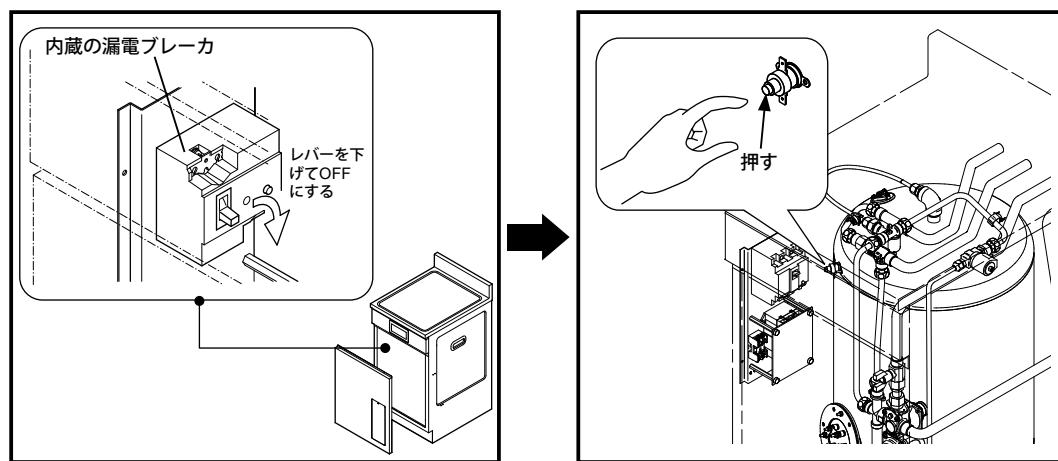
ES-DWUBには「過昇温検出」(サーモスタットのトラブル時などに発生するオーバーヒート防止)装置が装備されています。何らかの理由で作動し運転が停止した場合には、下記の手順でリセット操作を行ってください。

①運転スイッチをOFFにしてください。



②機器内の漏電ブレーカー、および一次側の漏電ブレーカーをOFFにしてください。

③原因を確認した上でネジ止めされている本器天板をゆっくり外し、十分に温度が下がってから給湯器内部の下図の場所にある過昇温リセットボタンを押してください。

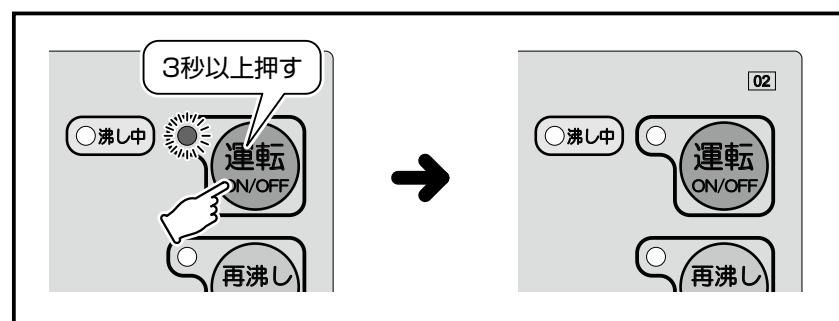


リセットの方法② 管理技術者の方

※この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

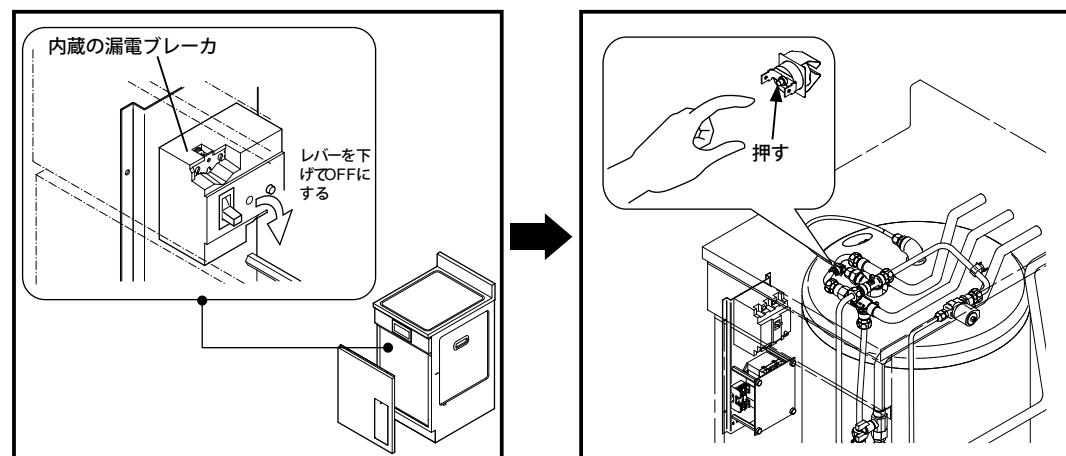
ES-DWUBには「過昇温検出」(サーモスタットのトラブル時などに発生するオーバーヒート防止)装置が装備されています。何らかの理由で作動し運転が停止した場合には、下記の手順でリセット操作を行ってください。

- ①運転スイッチをOFFにしてください。



- ②機器内の漏電ブレーカー、および一次側の漏電ブレーカーをOFFにしてください。

- ③原因を確認した上でネジ止めされている本器天板をゆっくり外し、十分に温度が下がってから給湯器内部の下図の場所にある過昇温リセットボタンを押してください。



取扱説明

アフターサービス

アフターサービス

消耗品について

下表に記載する部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため、定期的に交換してください。

部品交換(有償)はアフターサービス窓口までご連絡ください。

部品名		交換時期の目安	交換いただく理由
弁・パッキン	逃し弁付減圧弁 (ストレーナー付)	設置・交換日より 3~5年	長期間ご使用いただくことにより、経年劣化やスケール※による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。 ※水道水中のミネラル分が固着したもの。
	逆止弁		
	間欠エア抜き弁		
	混合弁		
	Oリング・パッキン類		
電装部品	ヒーター	設置・交換日より 5~7年	
	コントローラー		
	過昇温防止スイッチ		
	センサー類		
	ケーブル・コード・配線類		
	その他電装類		

※使用頻度、環境によっては交換が早まる場合があります。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。

メンテナンス契約について

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは裏表紙に記載の弊社リニューアル課までご連絡ください。また、部品のご注文はアフターサービス窓口にて承っております。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼されるときは、P.42の故障状況シートの必要事項にご記入いただき、お電話またはインターネット、FAXにてご連絡ください。(型番や製造番号等は本体貼り付けの保証票に印刷されていますので、故障状況シートへ転記してください。)

保証票		電気温水器
型番	貯湯量 L	
満水質量 約 kg		
最高使用圧力 0.1MPa	JET	
電源	屋内用	
周波数 50/60Hz	PE JET	
消費電力		
保証期間	納入後3年間	
製造番号		
株式会社日本イトミック		

アフターサービス窓口

TEL

〈全国共通ナビダイヤル〉

**0570-011039**

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報を用意ください。

受付時間:24 時間 365 日(営業時間:8:45 ~ 17:45)

一般電話・公衆電話・携帯電話の場合(市内通話料金ご利用可能です)

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみご利用できます。※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。※PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合、以下の窓口にお問い合わせください。

関東地区のお客様 : 03(3621)2161 関東地区以外のお客様 : 裏表紙記載の最寄りの営業所にお問い合わせください。

インターネット 〈インターネット修理受付窓口〉

<https://www.itomic.co.jp/repair/>

インターネットのフォームにて修理のご依頼を受け付け致します。入力内容のご確認および訪問日のご調整のため、お申込み頂いた翌営業日に担当者よりご連絡を差し上げます。

FAX

〈FAX 修理受付窓口〉 03-3621-2163

FAX で修理のご依頼を受け付け致します。以下故障状況シートに記載の上、最寄りの営業所へお送りください。
(裏表紙に記載)

故障状況シート

貴社名		ご担当者名	
ご住所			
T E L		F A X	
製品型番	ES-DWUB-LC(6)		
電源、電力		製造番号	
設置場所		保証期限	

状態

取扱説明

MEMO

取扱説明

MEMO

取扱説明

MEMO

【無料修理規定】

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から3年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示の上、アフターサービス窓口までご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、アフターサービス窓口にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前にアフターサービス窓口にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
 - (1) お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかつたことによる不具合や、部品・タンク内の清掃など日常のお手入れを行わなかつたことによる不具合※1
 - (2) Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
 - (3) 工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
 - (4) 輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
 - (5) 専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
 - (6) 指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
 - (7) 温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
 - (8) 設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
 - (9) 電気・給水の供給トラブル等による不具合
 - (10) 配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
 - (11) 建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合
 - (12) 火災、爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙、降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
 - (13) 保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様ご自身で行えるもののはかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認いただくとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認いただくとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧いただくか、アフターサービス窓口までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社 日本トミック

本社・営業本部 TEL : 03 (3621) 2121 (代)

FAX : 03 (3621) 2130

〒 131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリータワー 24F)

ホームページ <https://www.itomic.co.jp/>

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

一般電話・公衆電話・携帯電話の場合(市内通話料金でご利用可能)

 0570-011039

【ナビダイヤルに関するご注意】

*ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。

*電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直しください。

*P.H.S.、I.P.電話からはご利用になれません。関東地区のお客様は以下の窓口、その他の地域のお客様は最寄りの営業所まで直接お問い合わせください。

関東地区お問い合わせ

TEL : 03 (3621) 2161

FAX : 03 (3621) 2163

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。

また、部品のご注文はアフターサービス窓口で承っています。

リニューアル課

TEL : 03 (3621) 2760

FAX : 03 (3621) 2160

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

《担当エリアと営業所》

北海道地区 TEL : 011 (615) 6681
FAX : 011 (615) 7004
北海道営業所
〒 063-0801 北海道札幌市西区二十四軒 1 条 5-1-10 (ラポール 24 軒 2 号館)

担当エリア：北海道地区全域

東北地区 TEL : 022 (357) 0848
FAX : 022 (357) 0847
東北営業所
〒 983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂 2-8-21

担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県

関東・新潟・山梨・静岡地区 TEL : 03 (3621) 2121
FAX : 03 (3621) 2130
〒 131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリータワー 24F)
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／神奈川県／山梨県／新潟県

中部・北陸地区 TEL : 052 (222) 2561
FAX : 052 (222) 2559
中部営業所
〒 460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-12 (アレックスビル 3F)
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 TEL : 06 (7177) 4949
FAX : 06 (7177) 4948
近畿営業所
〒 541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町 3-1-11 VORT 御堂筋本町 II 7F
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山県／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 TEL : 082 (240) 1361
FAX : 082 (240) 1363
中国営業所
〒 730-0051 広島県広島市中区大手町 2-3-9 (大手町中村ビル 2F)
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 TEL : 092 (481) 3911
FAX : 092 (481) 3930
九州営業所
〒 812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵 3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県